

2008年5月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所より～



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 碧南市制60周年記念式典 ○砂浜再生プロジェクトに参加
 - 半田運河をこいのぼりが泳ぐ ○豊橋コンテナターミナルオープン式典
 - 三河湾でおいしいバカ貝がとれています
 - 衣浦港の水質は・・・(半田運河探検隊からの報告) ○亀崎潮干祭
- シリーズ～海と環境⑤～「赤潮」と「苦潮(青潮)」



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

GW、三河湾の春の風物詩、潮干狩りに行ってきました。

以前、バケツに入れた海水にアサリを入れ持ち帰ったところ、水温が上昇し、アサリが全滅するという憂き目にあったため、今回はきちんとクーラーボックスを用意。新品の熊手も購入し、出陣。今回の行き先は豊川河口付近。当日は天候にも恵まれ、朝9時前に現地に着いたところ、既に多くの方で賑わっていました。始めると夢中になり、あっという間に3時間近く経過。急に潮が満ちてきたため、お昼前に退散。きちんとした潮干狩り場ではないため、ザクザクとれる、とまではいきませんでしたが、その日の夕飯分は確保。運のいいことにハマグリも1匹とれ、アサリとともに酒蒸しにして頂きました。

三河湾では当たり前の潮干狩りですが、これも絶妙の地理関係にあるためのようです。実際、日本海側ではあまり行われませんし、アサリの漁獲量は愛知県が国内第1位です。

このような大変恵まれた三河湾を豊かなものとするため、中部地方整備局が主体になり、平成19年3月に伊勢湾再生行動計画を策定し、各種メニューを実行しています。

その中で、当事務所では、平成16年まで行っていたシーブルー事業(中山水道航路の浚渫土砂を使って人工干潟、浅場を造成)の再開を目指し、新しい造成材の検討を進めています。三河湾の環境改善に向け取り組んで参りますので、引き続きご支援、ご協力をお願い致します。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○衣浦港の水質は・・・(半田運河探検隊からの報告)

5月3日、4日、半田市観光協会の主催により、衣浦大橋付近と半田運河の出口にある水門付近で水質調査を実施しました。当事務所は、5月3日に3回行われた水質調査のお手伝いをさせて頂きました。

事前に申し込みをされた約50名の親子やご夫婦が参加され、とても熱心に水質調査に取り組んでおられたのが印象的でした。

当日は当事務所所有の監督測量船に乗船し、透明度の測定(白い板を海中にせずめていって、見えなくなった地点での深さを測定。右の写真が測定中の様子です。)と海中の生き物(微生物)の調査を実施しました。透明度調査の結果をみて、「思ったよりもきれいだった。」という感想が多く寄せられていました。

また子供達は、水質調査もさることながら船に乗れたことが嬉しかったようで、船内では大はしゃぎでした。衣浦大橋付近での調査は、この日行われていた亀崎潮干祭の山車が並ぶ時間帯にたまたま重なり、船上から潮干祭が見られるなど、参加された皆さんは大変満足され、協力した我々も有意義な1日を過ごすことが出来ました。

○亀崎潮干祭

5月3日、4日、国の重要無形民俗文化財である祭礼「亀崎潮干祭」が衣浦港に面した半田市亀崎町の神前神社で開催されました。

この祭りは約300年間続いておりましたが、昭和34年の伊勢湾台風後の護岸整備により、祭りのクライマックスである山車の海浜曳き下ろしは永く途絶えていました。しかし、平成5年に人工海浜が完成し、昔ながらの勇壮な祭りが復活しました。

また、「彫刻・大幕・水引・追幕・からくり人形」を施した5台の山車は愛知県の有形民俗文化財に指定されており、豪華絢爛です。干潮時に5台の山車が神社前の砂浜に曳き下ろされ、法被や装束を着た男衆が「ヨイサー、エイサー」と波打ち際を曳き回す勇壮さは、まさに感動でした。



水質調査の様子



海浜曳き下ろし



5台の山車による人形技芸奉納



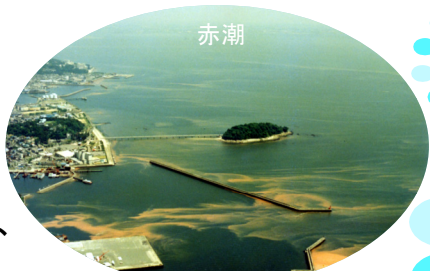
★シリーズ★

～海と環境⑤～「赤潮」と「苦潮(青潮)」

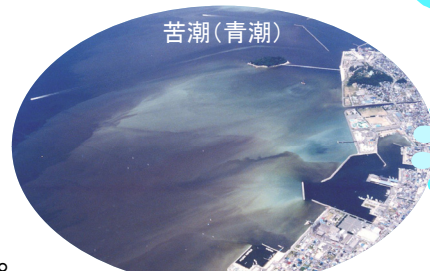
三河湾には、家庭排水、産業排水等が流れ込みますが、これらには、窒素やリンなどが含まれています。この窒素やリンが過剰に流入すると、大量の植物プランクトンが発生し、海面が赤褐色に変化することがあります。これを「赤潮」と呼びます。

「赤潮」によって発生した大量の植物プランクトンの死がいは、海底に降り積もり、この死がいをバクテリアが分解する際に大量の酸素が消費されます。そのため、海底付近では酸素の少ない水のかたまり(貧酸素水塊)ができてしまい、風や潮流の影響でこのかたまりが海面に浮き上がると、海面近くで硫化物が酸化し水面を青白くします。これを「苦潮(青潮)」といいます。

このように「赤潮」と「苦潮(青潮)」は深い関わりがあり、生態系に影響を及ぼしたり、透明度の低下を招くことがあります。



赤潮



苦潮(青潮)

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

○ 碧南市制60周年記念式典

4月5日、碧南市文化会館にて、碧南市制60周年記念式典が開催されました。式典開始前には、ピアノ、フルート、バイオリンによる演奏が行われ、和やかな雰囲気醸し出されました。

式典は、市民憲章唱和、永島市長による式辞、市議会議長あいさつ、市政功労者表彰と続きました。当日は、姉妹友好都市であるアメリカ・エドモンド市、クロアチア・プーラ市の関係者として両市長、在日クロアチア大使他多数の出席があり、両市長から来賓祝辞と記念品の贈呈も行われました。式典後には、一般の方々から公募した碧南市のロゴマーク標識の認定式があり、「碧」の字を基調としたマークが最優秀賞を受賞しました。

碧南市の市民憲章は、「衣浦港を門戸として、広く世界に目を開き」という文章で始められており、衣浦港が街にとって大きな役割を果たしていることが理解されます。碧南市のますますの発展をお祈りすると共に、当事務所としても引き続きサポートして参ります。



姉妹都市の市長から記念品贈呈



最優秀賞に選ばれたロゴマーク

○砂浜再生プロジェクトに参加



作業中

えるための活動です。夏に向けて上陸するウミガメの産卵場所を広げるという効果もあります。

当事務所からは、1月に続き2度目の参加で、以前から気になっていた1月に設置した堆砂垣の確認にも行ってきました。冬の強風に耐え抜き、たつぷりと砂を蓄えた姿は頼もしく写りました。

4月12日、表浜（豊橋市の太平洋側）でNPO法人表浜ネットワークが主催する第5回砂浜再生プロジェクト「2008表浜を作ろう！」に参加しました。

初夏を思わせる暖かな日差しの元、地元大学生、企業の方、サーファーの皆さんなど約60名が参加し、風により飛散する砂を留める堆砂垣の設置を行いました。砂浜近くに自生している竹を材料に使い、高さ1m程度の垣根を作る作業です。これは、近年問題視されている、砂浜の衰退を少しでも抑



1月に設置した堆砂垣



今回設置した堆砂垣

○半田運河をこいのぼりが泳ぐ



運河におよぐこいのぼり

でもあります。この時期、同じ半田市内の亀崎地区では、国の重要無形民族文化財「亀崎潮干祭」も開催されます。来年の端午の節句は、是非、半田運河周辺を訪れてみてはいかがでしょうか？

4月18日から5月6日までの間、半田運河沿いにおよそ100匹の鯉のぼりが漆喰の蔵をバックに泳ぎました。期間中は、18時から21時までの間、ライトアップも行われ、昼間とはうって変わった幻想的な雰囲気も楽しめました。この他にも、5月3日から5日の間は、半田市観光協会により、運河沿いの散策なども開催され、半田運河の魅力を堪能することができました。半田市は今年5月から、県内8番目、知多半島では初の景観行政団体となっており、半田運河周辺は重点的に景観整備を図る地区として指定されています。また半田運河は、世界的な映画監督である黒澤明監督のデビュー作「姿三四郎」のロケ地となった場所

○豊橋コンテナターミナルオープン式典



磯村直英社長による挨拶

卸しが行われました。参加者からは、普段なかなか目にする事のないコンテナ荷役のスケールの大きさに感心する声も聞かれました。その後、事前リハーサルで紙吹雪が飛んでしまうというハプニングがありましたが、くす玉開披が行われ、オープン式典は終了しました。

現在、三河港に就航している定期コンテナ航路は、外国航路では、韓国の釜山港や蔚山港、中国の上海港等、国内航路では、千葉港、大分港と結ばれており、平成19年の取扱実績は約3万8千TEUです。（※TEUとはコンテナの国際規格単位で、20フィート（約6m）コンテナ1個＝1TEUです。右の写真でKMTCの文字の入ったコンテナは長さ40フィートのため2TEUに相当します。）

このコンテナターミナルオープンにより、さらなる三河港の飛躍が期待されています。



ガントリークレーン稼働開始

○三河湾でおいしいバカ貝がとれています

4月中旬の週末、心地よい春の浜風を感じながら、三河湾の海岸探査に行ってきました。目的は、よくお味噌汁の具材や酒蒸しで食べるあさり採りでした。

三河湾で採れるあさは味に甘みがあり、いわゆるブランド品であることは、皆さまもご存じかと思います。小1時間の間であさはバケツ1杯になりましたが、その他には、バカ貝をよく見かけました。そこで、今回はバカ貝にスポットを当ててみたいと思います。

バカ貝と言えば、関東地方では昔からお寿司のネタとして重宝されていて、ここ最近、中部地方でもよく食材として使われ始めた二枚貝の一種です。正式名称は、あおやぎ（青柳）だと思っておられる方がいますが、バカ貝（馬鹿貝）が正解です。由来については、様々な説がありますが、オレンジ色をした足がだらりと殻の外に出る様子が、



三河湾に生息するバカ貝

あたかもだらしく舌を出しているように見えたことから命名された説が有力です。

ちなみに、よくかき揚げに使われる小柱はバカ貝の貝柱です。一般家庭では、砂抜きの大変さから調理を敬遠されがちではありますが、味には定評があり、最近、三河湾近郊のお店でよく見かけます。身も大きく食べ応えもありますので、ぜひの機会に三河湾のバカ貝を食してみてもは、いかがでしょうか？



今年もあさり採りで賑わっています！

